

事例報告

広島大学学術情報リポジトリ

HIR

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal/>



広島大学図書館部

学術情報リポジトリ主担当

尾崎 文代

fozaki@hiroshima-u.ac.jp

2006.11.17 共同ワークショップ「日本の機関リポジトリの今2006」

お話しすること

1. HIR概要
2. 公開までのプロセス
3. HIR現状

名 称

広島大学学術情報リポジトリ HIR

(Hiroshima University Institutional Repository)



「リポジトリ」
という語を前面に

参考(没例):

Peace-loving Hiroshima university Open Enlarging kNowledge Institutional ArXives

Hiroshima University Collection of Scholarly and Academic publication Repository



広島大学学術情報リポジトリは

OAI-PMHに準拠しています



リポジトリとは、学内の教育研究成果物を収集・蓄積・保存し、無償で学内外へ発信する電子書庫です。新たな研究成果発信ルートの新得・研究成果のビジビリティ(可視性)向上といったメリットがあります。論文・報告書等、コンテンツをお送り下さい！ [▼ 詳細](#)

CONTENTS MENU

[一覧\(ブラウジング\)](#)[学術情報リポジトリとは](#)[詳細検索](#)[FAQ](#)[コンテンツの登録](#)[リンク](#)

cool HIR注目コンテンツ

第1回 Monographシリーズ
(理学研究科 山崎勝義先生)

HEADLINE

- 図書館雑誌にHIR事例報告が掲載されました。(06/11/08)
- 広島大学学術情報リポジトリ正式公開(06/10/06)
- 学術雑誌論文500件突破！(06/10/04)
- HIR注目コンテンツを掲載しました。(06/09/19)
- 学内刊行物(紀要等)をご登録ください。図書館で電子化を支援いたします。(06/08/09) **締切り延長！！**
- 広島大学図書館ワークショップ「学術情報の新しいチャンネルー海外機関リポジトリの動向をさぐるー」を開催します。(06/07/14)
- サービスプロバイダ から検索が可能です。(06/06/30)
- 学術情報リポジトリを 試験公開しました。(06/04/12)

登録コンテンツの現況

学術雑誌論文	532
学内刊行物(紀要等)	1023
学位論文	32
修士論文/卒業論文	3
プレプリント	10
会議録/講演資料	54
プレゼンテーション資料	12
科研費報告書	19
ワーキングペーパー	1
単行書	18
単行書の章	7
電子教材	14
コレクション	5597

研究成果
1,725
デジタル資料
5,597

2006年11月現在



公開までのプロセス

2004.11	広島大学における学術情報のアーカイブ化と発信に関するWGの発足
2005.4	図書館内における検討委員会の設置
2005.5	機関リポジトリ設置の提言(WG報告書)
2005.7	大学全体の方針を協議する「企画会議」での了承
2005.8～ 2006.3	公開準備作業 システム調達・学内合意形成・コンテンツ収集
2006.4	試験公開
2006.10	本公開

体制（人海戦術）

- ▶ **電子図書館構築・整備委員会** (2005.4～)
 - 図書館職員7名
 - 学内合意形成班・システム調達班・コンテンツ収集班
- ▶ **コンテンツ収集専任チーム** (2005.12～2006.3)
 - 中央図書館2名＋各分館1名の合計5名
 - 代替はアルバイトを雇用。
 - 研究者を個別訪問し、コンテンツをかき集める。
 - 目標1,000件。
- ▶ **機関リポジトリ専任主担当の設置** (2006.4～)
 - 主査1名＋グループ員1名

学内合意形成

➤ 大学としての認知

2005.7 大学全体の方針を協議する「企画会議」で了承。

→典型的なトップダウン

➤ 研究者への説明

説明会計30回・動員数約500人

1. 学内諸会議で説明
2. 各研究科長を訪問し、個別に協力依頼
3. 部局別説明会
4. 地区別説明会
教官個別訪問、個別に電話・メール

→ボトムの仕事(草の根仕事)に移行 →ずーっと継続

初期コンテンツ収集 の希望と現実

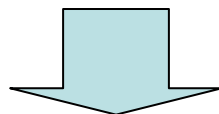
- 商業誌・学会誌のGreenにウェイトを。
→最初はとにかく数稼ぎ。もらえるものは全部もらう。
- 著作権ポリシー、まずは図書館で調査。
→もらったものは出版元へ問い合わせ。
→この先もずっと図書館で調査。
- できれば電子ファイルをください。
→紙媒体も歓迎。スキャナ活躍。
- セルフアーカイブにも望みを…。
→あっさり諦め。そのうち協力者を見つけよう。

日々やっていること

➤ WOS 等からGreenを探し、個別交渉

なんでもいいからください(初期)

- 数稼ぎには有効だった。
- が、著者稿を理解してもらえず、結局返却して温度の下がった研究者もあった。



この論文のこのテキストをください(現在)

- 指定する方が提供しやすい。
- 著作権が明確なので安心してもらえる。
- 近著は原稿保有率が高い。 →実入りがよい

さらに日々やっていること

➤ 学位論文の包括的収集

- 学位論文提出時のファイル提供を各研究科長に依頼
- 過去の取得者への許諾申請

➤ 科研費報告書の選別と許諾申請

➤ いつでもどこでも、営業

灰色文献の登録はやはり灰色か？

➤ 学位論文

- 公表された著作物 であるはず
- 実際には多い別刷合冊
- リライトして出版することがお約束の学部も

➤ 科研費報告書

- 公表された著作物とはいえない？
- 別刷再掲部分はカット
- 雑誌に投稿するので不可、との回答多数
(著者稿の拾い物)

レファレンス泣かせの資料を集める意義

地域共同IR の可能性を考える

- 参加館の拡大がIRの発展の鍵
- 自前で構築できない機関も、コンテンツの登録先があればできる？
- 幹事館がシステムを管理し、参加館は自機関のコンテンツを登録する仕組み ができれば。

プロジェクト(勉強会)スタート
参加: 県内6公私大

日々考えていること

➤ インターフェイスにこだわる

- 検索からのアクセスがほとんど。
個別のインターフェイスはいらないという極論も。
- ショーウィンドウとしての見栄え。
コンテンツの使われ方を考える。
「Cool (注目)contents」・「主題別」・「特集」
- これまで五月雨式に作ってきた電子コンテンツを
検索してもらうために同居。
そのインターフェイスは個別版を作らないと楽しくない。

(IRのコンテンツはあくまでも研究成果)

さらに日々考えていること

- 研究者を知る
 - 研究のフロー、ニーズを知る。
 - 喜ばれるものを作るために
- 一芸に秀でたIR
 - 特色あるコンテンツ探し。
 - 広島大でしか集められないものを。

座右の銘

➤ 志を高く

- 学術コミュニケーションの普及

➤ 実作業は地道に

- コンテンツ収集に王道なし

大切なのは育て続けること